

モデルコア高専5		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	歴史 2
科目基礎情報					
科目番号	0112		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	高等学校世界史A (183第一 世A309)、新詳高等地図 (1年次歴史1から継続)				
担当教員					
到達目標					
<p>1. 世界の歴史を通じて、人間活動と自然環境との関わりから生まれる様々な文化、宗教、各地域の地理的・歴史的特性を、科学技術や産業の発展が人間社会や自然環境に及ぼした影響も含めて学ぶ。</p> <p>2. 文化の多様性を理解し、各地域の人々の交流や対立によって生み出されてきた様々な問題を、歴史的背景を含めて理解する素養を養う。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	提出物をきちんと仕上げ、期限内に提出することができる。	提出物を期限内に提出することができる。	提出物を期限内に提出できない。		
評価項目2	小テストの内容をよく理解して、発展問題を自分で作成することができる。	小テストの内容を理解し、類似問題を解くことができる。	小テストの内容を理解できない。		
評価項目3	授業であつかった世界史の概略をよく理解し、主要な事項について、興味や関心を抱いて、原因や結果に至るまで説明できる。	授業であつかった世界史の概略を理解し、主要な事項について説明できる。	授業であつかった世界史の概略を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	ヨーロッパを中心として、古代・中世・近代の世界史を概観する。				
授業の進め方・方法	授業は講義形式を中心とする。 小テストをしっかりと復習すること。				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から新聞やニュースに目を通し、現在、日本や世界で起こっていることについて、広い関心を持つこと。 ・身近なところに地図帳を置き、ニュースに登場する地名を確かめて、頭の中に日本や世界の地図を作ること。 ・ノートをとる際には、黒板を書き写すだけでなく、気づいたことや説明などのメモを加え、後から振り返ったときに役に立つ独自のノートを目指すこと。 ・成績評価は評価割合に準拠するが、授業中の居眠りなどが甚だしい場合には、減点することもある。 				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	古代	紀元前6世紀から紀元前5世紀に、世界で宗教や哲学が生まれていたことを説明できる (仏教、儒教、ギリシア哲学、ユダヤ教)	
		2週	中国の古代	秦・漢帝国で皇帝が誕生し、儒教が国家の学問に採用され、後2000年にわたる帝国の原型ができたことを説明できる。	
		3週	ローマ帝国 (1)	古代ローマ文明の特徴を説明できる。 パクス・ロマーナについて説明できる。	
		4週	ローマ帝国 (2)	キリスト教の特徴と広がりについて説明できる。	
		5週	イスラームの成立	イスラームの特徴について説明できる。	
		6週	イスラーム帝国	スンナ派とシーア派の分裂、イスラーム帝国の拡大について説明できる。	
		7週	モンゴル帝国	モンゴル帝国によって、ユーラシア大陸の東西を結ぶ商業ネットワークが成立したことを説明できる。	
		8週	中間試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に対して適切な解答ができる。	
	2ndQ	9週	試験返却・解答 ビザンツ帝国	ビザンツ帝国と東ヨーロッパ世界の成立について説明できる。	
		10週	西ヨーロッパの中世世界	ローマ教皇と神聖ローマ皇帝を中心とした、西ヨーロッパの封建社会について説明できる。	
		11週	遠隔地交易と中世都市	商人と職人の世界である中世都市と、遠隔地交易の発展について説明できる。	
		12週	十字軍	十字軍運動とその失敗について説明できる。	
		13週	14世紀の危機	気候変動と疫病がユーラシア大陸に与えた影響について説明できる。	
		14週	大航海時代	アジアへのあこがれから始まったヨーロッパの「大航海時代」について説明できる。 ポルトガルとスペインの海外進出について説明できる。	
		15週	期末試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に対して適切な解答ができる。	
		16週	試験返却・解答 アメリカ大陸の古文明	アステカ王国・インカ帝国の概略について説明できる。	
後期	3rdQ	1週	スペインによる中南米征服	アメリカ大陸の文明がスペイン人の侵略によって滅亡したことを説明できる。 ヨーロッパとアメリカ大陸の出会いによって、双方がどのような影響を受けたのかを説明できる。	

4thQ	2週	グローバル化のはじまり	砂糖プランテーションと奴隷貿易と大西洋三角貿易について説明できる。 スペインによるフィリピン征服によって、太平洋での貿易が始まったことを説明できる。
	3週	ルネサンス	中世とルネサンスの考え方の違いが比較できる。 ルネサンスがイタリアで始まり、ヨーロッパ各地に広がった背景を説明できる。
	4週	宗教改革	ルネサンスの宗教改革への影響について説明できる。 ルターが宗教改革が、ドイツ農民戦争につながった経緯を説明できる。 カルヴァン派の予定説が商工業者に受け入れられたことを説明できる。
	5週	対抗宗教改革	カトリック内部の規律強化と海外への布教が、対抗宗教改革の柱だったことを説明できる。 16～17世紀のヨーロッパが宗教戦争の時代だったことを説明できる。
	6週	主権国家の成立	近世の主権国家のなかで、国王による中央集権化が進んだことを説明できる。 16世紀に新たに生まれた主権国家同士の関係が、後の国際関係の基本的な考え方につながったことを説明できる。
	7週	ハプスブルク家の盛衰	16世紀のハプスブルク帝国の拡大、スペイン帝国の繁栄と弱体化、ネーデルラント独立とイギリスとの構想について説明できる。
	8週	中間試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に対して適切な解答ができる。
	9週	試験返却・解答 三十年戦争	ドイツ三十年戦争と主権国家体制の成立について説明できる。
	10週	フランス絶対王政	ユグノー戦争の終結と、ルイ14世の絶対王政について説明できる。
	11週	イギリス革命	ジェントルマン階級の成立と、17世紀の革命によって、イギリスで議会主権が定着したことを説明できる。
	12週	アメリカ独立革命とフランス革命	アメリカ独立革命とアメリカ大陸での領土拡大について説明できる。 フランス革命とその後の混乱、ナポレオンの台頭と敗退について説明できる。
	13週	産業革命と労働運動（社会主義）のはじまり	産業革命の背景と展開の概略を説明できる。 産業革命が生活面でもたらした変化について説明できる。 資本主義経済と社会主義思想を比較し、概略を説明できる。
	14週	イギリスの繁栄と世界市場の形成	「世界の工場」イギリスの経済政策について説明できる。
	15週	期末試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に対して適切な解答ができる。
	16週	試験返却・解答	試験結果と照らし合わせて、これまでの復習をおこなう。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	微分積分 1			
科目基礎情報								
科目番号	0117		科目区分	一般 / 必修				
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2				
開設学科	一般教育		対象学年	2				
開設期	前期		週時間数	4				
教科書/教材	矢野, 石原: 基礎の数学 改訂版, 裳華房 / 矢野, 石原: 問題集 基礎の数学, 裳華房 / 矢野, 石原: 微分積分 改訂版, 裳華房							
担当教員								
到達目標								
1. 分数関数・無理関数・逆関数に関する基本的な問題を解くことができる。 2. 指数と対数に関する基本的な問題を解くことができる。 3. 整関数の微分と積分に関する基本的な問題を解くことができる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	分数関数・無理関数・逆関数に関する応用的な問題を解くことができる。		分数関数・無理関数・逆関数に関する基本的な問題を解くことができる。		分数関数・無理関数・逆関数に関する基本的な問題を解くことができない。			
評価項目2	指数と対数に関する応用的な問題を解くことができる。		指数と対数に関する基本的な問題を解くことができる。		指数と対数に関する基本的な問題を解くことができない。			
評価項目3	整関数の微分と積分に関する応用的な問題を解くことができる。		整関数の微分と積分に関する基本的な問題を解くことができる。		整関数の微分と積分に関する基本的な問題を解くことができない。			
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	分数関数・無理関数・指数関数・対数関数等について、それぞれの関数の性質とグラフについて学ぶ。整関数を題材として、微分・積分の基本事項について学ぶ。							
授業の進め方・方法	授業は主として講義形式で行うが、適宜問題演習の時間をとることがある。							
注意点	微分積分1は、高等専門学校でこれから学んでいく数学や専門科目の基礎となる科目であり、学習内容をしっかりと身につけることが望まれる。そのため、授業の復習と、自発的な問題演習に取り組むよう心掛けること。							
授業計画								
前期	1stQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	ガイダンス			授業の目標や進め方、成績評価の方法について知る。		
		2週	分数関数			分数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。		
		3週	無理関数			無理関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。		
		4週	逆関数			基本的な関数の逆関数を求め、そのグラフをかくことができる。		
		5週	累乗根と指数の拡張			累乗根の意味を理解し、指数法則を拡張し、計算に利用することができる。		
		6週	指数関数			指数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。		
		7週	指数方程式			指数を含む基本的な方程式を解くことができる。		
	8週	中間試験						
	2ndQ	9週	試験返却・解答 対数の定義と計算			対数の定義を知り、基本的な計算ができる。		
		10週	対数関数			対数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。		
		11週	対数方程式			対数を含む基本的な方程式を解くことができる。		
		12週	関数の極限と微分係数			関数の極限と微分係数の意味を理解し、整関数についてその値を求めることができる。		
		13週	整関数の微分			導関数の定義を理解し、整関数の微分ができる。		
		14週	整関数の積分			整関数について、不定積分・定積分の計算ができる。		
		15週	期末試験					
16週		試験返却・解答						
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100	
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

モデルコア高専5		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	微分積分2		
科目基礎情報							
科目番号	0118		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2			
開設学科	一般教育		対象学年	2			
開設期	後期		週時間数	4			
教科書/教材	矢野, 石原: 微分積分 改訂版, 裳華房						
担当教員							
到達目標							
1. 関数の極限に関する基本的な問題を解くことができる。 2. 積・商・合成関数の微分公式を利用した基本的な問題を解くことができる。 3. 三角関数・逆三角関数・対数関数・指数関数の導関数に関する基本的な問題を解くことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	関数の極限に関する応用的な問題を解くことができる。		関数の極限に関する基本的な問題を解くことができる。		関数の極限に関する基本的な問題を解くことができない。		
評価項目2	積・商・合成関数の微分公式を利用した応用的な問題を解くことができる。		積・商・合成関数の微分公式を利用した基本的な問題を解くことができる。		積・商・合成関数の微分公式を利用した基本的な問題を解くことができない。		
評価項目3	三角関数・逆三角関数・対数関数・指数関数の導関数に関する応用的な問題を解くことができる。		三角関数・逆三角関数・対数関数・指数関数の導関数に関する基本的な問題を解くことができる。		三角関数・逆三角関数・対数関数・指数関数の導関数に関する基本的な問題を解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	関数の極限の概要とその値の求め方について学ぶ。 三角関数・逆三角関数・指数関数・対数関数の微分について学ぶ。						
授業の進め方・方法	授業は主として講義形式で行うが、適宜問題演習の時間をとることがある。						
注意点	微分積分2は、高等専門学校でこれから学んでいく数学や専門科目の基礎となる科目であり、学習内容をしっかりと身につけることが望まれる。 そのため、授業の復習と、自発的な問題演習に取り組むよう心掛けること。						
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	関数の極限	いろいろな関数の極限を求めることができる。			
		2週	積の微分公式	積の導関数の公式を使うことができる。			
		3週	商の微分公式	商の導関数の公式を使うことができる。			
		4週	合成関数の微分公式	合成関数の導関数を求めることができる。			
		5週	三角関数の極限	三角関数に関係した極限を求めることができる。			
		6週	三角関数の微分 (1)	基本的な三角関数の導関数を求めることができる。			
		7週	三角関数の微分 (2)	積・商・合成関数を利用して、三角関数の導関数を求めることができる。			
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	試験返却・解答 逆三角関数の定義	逆三角関数の定義を知り、値を求めることができる。			
		10週	逆三角関数の微分 (1)	基本的な逆三角関数の導関数を求めることができる。			
		11週	逆三角関数の微分 (2)	積・商・合成関数を利用して、逆三角関数の導関数を求めることができる。			
		12週	自然対数の底	自然対数の底について知り、関係する基本的な計算ができる。			
		13週	指数関数の微分	指数関数の導関数を求めることができる。			
		14週	対数関数の微分	対数関数の導関数を求めることができる。			
		15週	期末試験				
		16週	試験返却・解答				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	代数・幾何 1
科目基礎情報					
科目番号	0120	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	矢野, 石原: 基礎の数学 改訂版, 裳華房 / 矢野, 石原: 問題集 基礎の数学, 裳華房				
担当教員					
到達目標					
1. 平面図形と式に関する基本的な問題を解くことができる。 2. 数列に関する基本的な問題を解くことができる。 3. 場合の数に関する基本的な問題を解くことができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	平面図形と式に関する応用的な問題を解くことができる。	平面図形と式に関する基本的な問題を解くことができる。	平面図形と式に関する基本的な問題を解くことができない。		
評価項目2	数列に関する応用的な問題を解くことができる。	数列に関する基本的な問題を解くことができる。	数列に関する基本的な問題を解くことができない。		
評価項目3	場合の数に関する応用的な問題を解くことができる。	場合の数に関する基本的な問題を解くことができる。	場合の数に関する基本的な問題を解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	平面図形と式、数列、場合の数に関する基本的な事項を学ぶ。				
授業の進め方・方法	授業は主として講義形式で行うが、適宜問題演習の時間をとることがある。				
注意点	代数幾何1は、高等専門学校でこれから学んでいく数学や専門科目の基礎となる科目であり、学習内容をしっかりと身につけることが望まれる。そのため、授業の復習と、自発的な問題演習に取り組むよう心掛けること。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業の目標や進め方、成績評価の方法について知る。	
		2週	2点間の距離	2点間の距離を求めることができる。	
		3週	内分点と外分点	内分点と外分点の座標を求めることができる。	
		4週	直線の方程式 (1)	通る点と傾きから直線の方程式を求めることができる。	
		5週	直線の方程式 (2)	2点を通る直線の方程式を求めることができる。	
		6週	2つの直線の平行と垂直	2つの直線の平行・垂直関係を傾きの関係として理解できる。	
		7週	平行・垂直な直線の方程式	平行な直線や垂直な直線の方程式を求めることができる。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	試験返却・解答 円の方程式	基本的な円の方程式を求めることができる。	
		10週	中心と半径	円の方程式から中心の座標と半径を求めることができる。	
		11週	円と直線 (1)	円と直線の位置関係と連立方程式の解との関係について知る。	
		12週	円と直線 (2)	与えられた方程式から円と直線の位置関係が判定できる。	
		13週	円の接線 (1)	円の接線の方程式を求めることができる。	
		14週	円の接線 (2)	円の接線に関する基本的な問題を解くことができる。	
		15週	期末試験		
		16週	試験返却・解答		
後期	3rdQ	1週	等差数列 (1)	等差数列の一般項やその和を求めることができる。	
		2週	等差数列 (2)	等差数列に関係する応用的な問題を解くことができる。	
		3週	等比数列	等比数列の一般項やその和を求めることができる。	
		4週	総和記号 (1)	総和記号 Σ を用いて数列の和を表現することができる。	
		5週	総和記号 (2)	総和記号 Σ を用いた基本的な数列の和を計算することができる。	
		6週	階差数列	階差数列と元の数列との関係を知る。	
		7週	漸化式	漸化式の意味を知る。	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	試験返却・解答 積の法則と和の法則	場合の数の計算における積の法則と和の法則の違いを理解する。	
		10週	順列と組合せ	順列と組合せの違いを理解してする。	
		11週	順列の計算	順列に関する基本的な計算ができる。	
		12週	組合せの計算	組合せに関する基本的な計算ができる。	

	13週	二項定理	二項定理の意味を知る。
	14週	二項定理の計算	二項定理を用いた基本的な問題が解ける。
	15週	期末試験	
	16週	試験返却・解答	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	English Communication 3		
科目基礎情報							
科目番号	0135		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 2			
開設学科	一般教育		対象学年	2			
開設期	前期		週時間数	4			
教科書/教材	All Aboard! Communication English II (東京書籍)						
担当教員							
到達目標							
1. 基礎的な文法、単語、熟語等の定着をはかる 2. 辞書を用いて、自分で英文の内容を大体把握することができる 3. 簡単な英語を使って、身近な事柄について簡単な文を作ることができる 4. 非英語圏の文化にも目を向ける							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	基礎的な文法、単語、熟語等の定着し、応用ができる		基礎的な文法、単語、熟語等が知識として定着している		基礎的な文法、単語、熟語等の定着していない		
評価項目2	辞書を用いて、自分で英文の内容を詳しく把握することができる		辞書を用いて、自分で英文の内容を大体把握することができる		辞書を用いられず、英文の内容も把握できない		
評価項目3	簡単な英語を使って、身近な事柄について文を作ることができる		簡単な英語を使って、身近な事柄について簡単な文を作ることができる		簡単な英語を使って、身近な事柄について簡単な文を作れない		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	1年時に学んできたことを確実に理解し、自分のものとするを旨とし、グローバルな視点を養う。						
授業の進め方・方法	授業は主に講義形式で行う。 予習や復習を毎時間欠かさないこと。						
注意点	英検準2級、工業英検4級などを受験し、現在の自分の英語力を知っておく。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Lesson 1 My Friend in Hawaii		比較表現: more, the mostについて理解する		
		2週	Lesson 1 My Friend in Hawaii		比較表現: more, the mostが使われた文章を読み、意味を正しく読み取ることができる		
		3週	Lesson 2 Streetcars in My City		関係代名詞: whatについて理解する		
		4週	Lesson 2 Streetcars in My City		関係代名詞: whatが使われた文章を読み、意味を正しく読み取ることができる		
		5週	Lesson 3 Crossing Language Barriers		現在完了進行形を理解する		
		6週	Lesson 3 Crossing Language Barriers		現在完了進行形が使われた文章を読み、意味を正しく読み取ることができる		
		7週	Lesson 4 The Spirit of the Forest		間接疑問文について理解する		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	中間試験返却 Lesson 4 The Spirit of the Forest		間接疑問文が使われた文章を読み、意味を正しく読み取ることができる		
		10週	Lesson 5 Girl with a Pearl Earring		名詞を後ろから説明する分詞について理解する		
		11週	Lesson 5 Girl with a Pearl Earring		名詞を後ろから説明する分詞が使われた文章を読み、意味を正しく読み取ることができる		
		12週	Grandchildren's Restaurant		不定詞を含む表現について理解する		
		13週	Grandchildren's Restaurant		不定詞を含む表現が使われた文章を読み、意味を正しく読み取ることができる		
		14週	The Microcosm in the Sea		動詞の目的語になるif節について理解する		
		15週	期末試験返却 The Microcosm in the Sea		動詞の目的語になるif節が使われた文章を読み、意味を正しく読み取ることができる		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	0	40	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	40	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	English Communication 4		
科目基礎情報							
科目番号	0136		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 2			
開設学科	一般教育		対象学年	2			
開設期	後期		週時間数	4			
教科書/教材	All Aboard! Communication English II (東京書籍)						
担当教員							
到達目標							
1. 積極的に言語活動を行ない、コミュニケーションを図ろうとすることができる。 2. 聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解することができる。 3. 話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えることができる。 4. 言語や運用についての知識を身に付け、背景にある文化を理解することができる。							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	積極的に言語活動を行ない、コミュニケーションを図ろうとすることができる。		積極的に言語活動を行ない、コミュニケーションを図ろうとすることがほぼできる。		積極的に言語活動を行ない、コミュニケーションを図ろうとすることができない。		
評価項目2	聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解することができる。		聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解することがほぼできる。		聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解することができない。		
評価項目3	話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えることができる。		話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えることがほぼできる。		話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えることができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	これまでの基礎学習をもとに、さらに高度で複雑な文法を理解し、英文を読めるようになることを目指して学習する。						
授業の進め方・方法	授業は主に講義形式で行う。 予習を行ったうえで授業に臨むこと。						
注意点	課題はまじめに取り組み、提出期限を守ること。 自学自習をしない限り、英語力は伸びないことを肝に銘ずること。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	Wings of Music			補足説明をする関係代名詞(who, which)について理解する	
		2週	Wings of Music			補足説明をする関係代名詞(who, which)について応用できる	
		3週	Wings of Music Magic of the Cotswolds			関係副詞(when, where)について理解する	
		4週	Magic of the Cotswolds			関係副詞(when, where)について応用できる	
		5週	Magic of the Cotswolds Bunraku			知覚動詞について知り、その用法の特徴を理解する	
		6週	Bunraku			知覚動詞について知り、その用法の特徴を理解する	
		7週	Bunraku			知覚動詞の用法について理解し、応用できる	
		8週	中間試験返却 Bitter Truth about Chocolate			使役動詞について知り、その用法の特徴を理解する	
	4thQ	9週	Bitter Truth about Chocolate			使役動詞の用法について理解し、応用できる	
		10週	Bitter Truth about Chocolate			使役動詞の用法について理解し、応用できる	
		11週	Hayabusa's Present from Space			分詞構文について理解する	
		12週	Hayabusa's Present from Space			分詞構文について理解を深める	
		13週	Hayabusa's Present from Space Olivia			分詞構文について応用できる	
		14週	Olivia			英語長文を読む	
		15週	期末試験返却 Olivia			英語長文を読み、ストーリーがわかる	
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	20	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	20	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	一般基礎教育 2		
科目基礎情報							
科目番号	0141		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般教育		対象学年	2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	大学 学びのことはじめ (ナカニシヤ出版)						
担当教員							
到達目標							
① 高専生として主体的に学習する姿勢を培う。 ② エンジニアとして社会でキャリアを積み上げていくための礎をつくる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般基礎教育 2 はキャリア教育と英語基礎演習・数理基礎演習を、5・6 現に各週で行う。各学期に数回、専門学科教員の話、講演会などが予定されている。						
授業の進め方・方法	授業は、教室か視聴覚教室かのいずれかで行う。実施教室や担当教員についてはその都度連絡する。						
注意点	合格・不合格のみで評価し、評点はつけない。 合格・不合格は出席や課題の提出によって決定する。						
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	基礎演習				
		2週	キャリア				
		3週	基礎演習				
		4週	キャリア				
		5週	基礎演習				
		6週	キャリア				
		7週	基礎演習				
		8週	キャリア				
	2ndQ	9週	基礎演習				
		10週	キャリア				
		11週	基礎演習				
		12週	キャリア				
		13週	基礎演習				
		14週	スタディサポート試験またはGTEC				
		15週	キャリア	半年間、1年半の一般基礎演習の感想を書く			
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	哲学		
科目基礎情報							
科目番号	0006		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 1			
開設学科	一般教育		対象学年	4			
開設期	通年		週時間数	0.5			
教科書/教材							
担当教員							
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要							
授業の進め方・方法							
注意点							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0